

# 札幌市環境プラザ展示更新基本計画(方針案)

平成29年3月23日(木)

## 1. 【札幌市環境プラザの概要と環境問題をめぐる社会情勢等の変化】

### 【札幌市環境プラザの概要】

- 名称：札幌市環境プラザ
- 所在地：札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ公共4施設2階
- 面積：全体 約509㎡／展示コーナー 約210㎡

札幌市環境プラザ（以下、「環境プラザ」という。）は、札幌市環境基本条例（平成7年条例第45号）に基づき、環境に優しい社会を創造し、地球環境の保全に貢献していくため、環境の保全に関する活動の総合的な拠点施設として、平成15年9月に設置されました。

環境プラザは、札幌駅北口の複合施設「札幌エルプラザ公共4施設」の2階にあり、地球上の様々な環境問題について知る「メッセージスタジオ」、エコライフについて学ぶ「ハウススタジオ」、都市に住む人と自然との関係について学ぶ「タウンスタジオ」、各種団体、札幌市などの情報を入手できる「情報コーナー」、講座や学習会を開催できる「環境研修室」環境団体等の打合せを行う「ミーティングルーム」などから構成され、体験型を含む各種展示物が設置されています。市内の小学校等教育機関からの見学の他、児童会館など見学の見学、町内会など大人の見学など、環境プラザスタッフが対応する利用の他、来館した方たちが、自由に体験・見学するなどして利用されています。

しかしながら、環境プラザの設置後、環境問題をめぐる状況は大きく変化しています。

### 【環境問題をめぐる社会情勢の変化】

#### ■ 社会情勢の変化 1

環境プラザが開設された平成15年（2003年）以降、地球温暖化に関する状況や取り組みが大きく変化し、2011年の東日本大震災を経て、エネルギーをめぐる状況も大きく変化しています。また、生物多様性をめぐる状況や取り組みについても変化がある他、その他の環境問題をめぐる状況や取り組みも変化してきています。それらを踏まえた札幌市の計画や施策についても、見直し・更新が行われており、これまで以上に市民・企業等に対して状況に即した情報を受発信していくことが求められています。

#### ■ 社会情勢の変化 2

時代の進展に伴い、情報発信や展示の方法も変化し、受け手の感覚も変化してきています。

（スマホやSNSなどによる情報伝達手段の変化）

そのような状況を鑑みたとき、環境プラザの展示物については、新しい要請に対応し切れていない状況が見られます。時代のニーズに合った発信手法で、情報発信を行っていく事が求められています。

→情報の受発信を通じた市民とのコミュニケーションの必要性

### 2. 【展示更新に向けた検討の背景・経過と基本計画の位置づけ】

#### 【展示更新に向けた検討の背景】

環境プラザは、平成15年9月に開設され、札幌市の環境保全の拠点施設としての役割を担ってきました。今年で14年目を迎えます。平成26年に、ハウススタジオについては、時代に合わせたエコライフを学べるよう更新を行ったところですが、開設以降の社会情勢やエネルギー事情の大きな変化には十分には対応できていない状況です。そのような中、札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015においても「札幌市の主要な環境拠点施設である環境プラザにおいて、より実践的な学習内容となるよう展示物を更新し、情報発信力の強化を図る。」と記載されました。

#### 【展示更新に向けた検討の経過】

環境プラザの展示更新に向けて、展示更新コンセプトや展示手法、演出方法の方針を作成するため、施設利用者（大人・子ども）、環境保全関係者、施設管理者等の意見を聴取するヒアリング、ワークショップ、アンケートを行いました。

##### <ヒアリング>

- ① 環境プラザ運営協議会委員および札幌市環境教育基本方針推進委員に対してアンケートによるヒアリング
- ② 環境プラザ環境相談員へのヒアリング
- ③ 環境プラザスタッフへのヒアリング

##### <ワークショップ>

- ① 施設利用者（子ども）を対象として児童会館で実施（2回）
- ② 施設利用者（子ども）を対象として小学校で実施（1回）
- ③ 施設利用者及び環境保全・環境教育等の関係者を対象として実施（2回）

##### <アンケート>

- ① 施設利用者を対象として実施

### 3. 【展示更新基本計画の方針】

#### 【展示更新基本計画の方針】

環境プラザの展示更新にあたり、施設利用者および環境教育・環境保全関係者から、ヒアリング、ワークショップ、アンケートの手法をとり、意見を聴取し、幅広い意見をいただくことができました。

(詳細については、別途作成、掲載予定)

これらの意見に基づき、環境プラザの展示コーナー（約210㎡）を対象とした「環境プラザ展示更新基本計画」を作成します。この基本計画は、展示更新に向けたコンセプトや運営管理の方向性を示すものです。

#### 3.1 【展示更新のメインコンセプト】

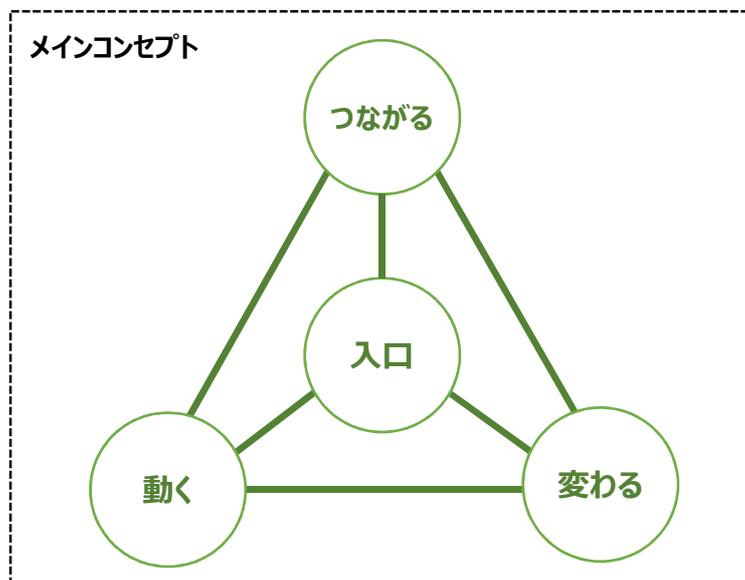
##### 「入口」「つながる」「動く」「変わる」

「入口」に関連する表現は、ヒアリングと環境教育・環境保全関係者のワークショップで数多く出ていました。たとえば、ワークショップでは、環境プラザのメッセージとして「環境首都さっぽろのどこでもドア」「きっかけ」「入口の場」「火をつけて送り出す」「次の一歩」などがそうです。

「つながる」に関する表現は、上述と同様のヒアリングとワークショップで数多く出ていました。たとえば、「行動につながる」「各展示につながる」「他の施設とつながる」「来場者につながる」「団体・企業とつながる」「札幌市政とつながる」「情報と（が）つながる」「知識・知恵につながる」などがそうです。

「動く」に関する表現は、「心が動く」ものとして、「発見」「わかる」「気づく」「疑問が生まれる」「好奇心」「意見」「気になる」「行動する」などと、「展示物が動く」ものとして「可動」などが挙げられます。

「変わる」に関する表現は、「変化に対応できる」という意味を持ち、「人数によって変わる」「季節によって変わる」「対象の年齢や興味、背景・属性によって変わる」「時代によって変わる」「社会情勢によって変わる」「可動」「融通性」等が挙げられます。



#### 3.2 【情報発信者の整理】

ヒアリングやワークショップなどを通して浮かび上がってきたのは、情報発信者は、設置者である札幌市環境局や管理運営者だけではなく、札幌市の各部局・関連施設、国の各機関・関連施設、事業者、活動団体・NPO/NGO、来館者をはじめとした各年齢層の市民などです。

#### 3.3 【対象者（情報の受け手）の整理】

展示コーナーの利用者は、環境プラザスタッフが対応する小学校等教育関連の見学や学校以外の子どもや大人の見学（合計約1,000人/年）の他、チラシやパンフレット等の収集やイベント参加等で訪れた方や、展示コーナー以外の施設にいらした方の立ち寄り等で30,000人（/年）以上のポテンシャルを持っています。よって、子どもと大人の両方を対象としたものとする必要があると考えられます。ただし、ヒアリングで出された「子どもに分かりやすいものは、大人にもわかりやすい」という視点が重要となります。

#### 3.4 【コンセプトを支える方針】

環境教育・環境保全関係者のワークショップで出された「（展示物に関して）よく見るとすごい」「素材はよい」「今あるものを有効活用」「使われていないのがもったいない」などの意見を踏まえ、「**現状の展示物を最大限活かす**」、また、ワークショップ、ヒアリングで多く出された「**管理者が使いやすい**」、そして札幌市環境局が考える環境に関する問題提起、エコライフの提案と実践、次世代エネルギー、生物多様性、北国の環境などの「**重要テーマの反映**」という3つをコンセプトを支える方針と位置付けます。

#### 3.5 【実際の更新およびその後の運営に関して】

委員意見、ワークショップどちらでも、「多様な情報発信の担い手と連携・協力しながら、運営していくことが重要であること」が強調されていたことを付記しておきます。

3.6 【今回の更新コンセプトと具体案の一例】

